

SDGs × 障害福祉

誰もが安心して暮らせる社会をいぶき福祉会が実現します。



岐阜県のSDGs

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/26370.html>



外務省
JAPAN SDGs Action Platform

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>



社会福祉法人
いぶき福祉会

<https://ibuki-komado.com/>



誰もが安心して暮らせる
寛容な社会をめざします



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SDGsと障害福祉。 多様性を認め、助け合い支え合いながら 生きていくということ。 持続可能な社会はその延長にあるものです。

強くたくましい人だけが輝けばいい？
お金や地位のある人だけが称賛されればいい？
いいえ、そうではなく、
生きづらさを感じている人、得意なことや苦手なことの差がある人だって、
それぞれの凸凹を補い合いながら
多様な人たちが、一人ひとり自分らしく輝ける社会であってほしい。
もちろん、障害のある人も。

厚生労働省による統計データ(※1)をみると
障害のある人の推計は身体障害児・者が436万人、
知的障害児・者が109.4万人、精神障害者が419.3万人。
総人口1000人あたりでみると、身体障害児・者は34人、
知的障害児・者は9人、精神障害者は33人となり
意外と多いことに気づくのではないのでしょうか。
しかし現状は、仕事や生活面において
障害のある人が生きやすい社会であるとはいえません。

SDGsにはさまざまな分野の課題が掲げられていますが
障害福祉はその入口のひとつです。
この冊子が、SDGsそして障害福祉をはじめとする
さまざまな生きづらさの解決にむけた
対話と行動が生まれるきっかけになることを願います。

※1 令和2年版厚生労働白書より

SDGsとは？



Sustainable Development Goals

持続可能な

開発

目標

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」を略した言葉です。
貧困、紛争、気候変動、エネルギー、ジェンダーなど世界全体が数多くの問題に直面し、未来への危機感を抱いています。そんななか、地球上にある豊かな自然や資源を未来に残し、誰ひとり取り残すことなく幸せに暮らせる世界となるよう2030年までに達成すべき17の目標が2015年の国連総会で定められ、世界各国で取り組まれています。
まずは、私たち一人ひとりが、自分の身近な社会にあるSDGsのつながりを知ること。そして、持続可能な世界、誰もが幸せに暮らせる世界になるためには、自分に何ができるか?を考え、行動することが第一歩です。

いぶき福祉会では どんな取り組みをしている？

身体、知的発達、精神に障害のある人たちの
自立を支援する「障害福祉」においては、
どんなSDGsの取り組みがあるのでしょうか？
いぶき福祉会が行ってきた事例をもとに
SDGsとのつながりを読み解いていきます。



思いを育み、 役割を作る

一人ひとりの思いを育むことを大切に、
多様な取り組みをしています。
そこに自分の役割があり
仲間と一緒にがんばることは、
社会の一員であるという誇りと
やりがいにつながります。
年金と合わせれば暮らしていけるだけの
給料の実現も目指しています。

いのちと生活を 支える

自分だけでは息をすることも、
楽しくおしゃべりすることも、
好きなところに行くことも難しい人たちもいます。
一人ひとりの願いに寄り添いながら、
安心できる居場所や支えてくれる人がいる
暮らしをつくっています。

誰もが安心して 暮らせる 社会の実現

つながり、 価値を創る

企業や団体、また市民の方々が
気軽に地域づくりに参加できるような
プロジェクトを展開したり、
いぶき福祉会の活動の場を地域に開放したり。
障害のある人となない人の壁を薄め、
新しい協働が生まれるような
場づくりをしています。



障害福祉におけるSDGs



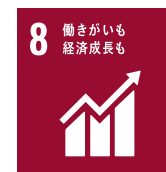
貧困をなくそう

貧しい人や弱い立場にいる人たちも安心して暮らせる社会づくり。
また、働く場があることで生活が守れるような仕組みづくり。



すべての人に健康と福祉を

誰でもお金の心配をすることなく基礎的な保健サービスを受ける
ことができ、健康な心身で安定した生活を送れるよう対策する。



働きがいも経済成長も

障害があっても働きがいのある仕事ができるようにする。また、同じ
仕事に対して、誰しも同じ給料が支払われるようにする。



人や国の不平等をなくそう

すべての人が能力を高め、社会的・経済的に取り残されないように
する。チャンスが平等にあり、所得などの格差を減らす。



住み続けられるまちづくりを

すべての人が住むのに十分で安全な家で暮らすことができ、障害
の有無にかかわらず不自由なく移動できるまちづくり。



平和と公正をすべての人に

誰でも基本的な自由が守られるとともに、少数派の境遇を多数派
が理解することで平和と公正が守られるようにする。



パートナーシップで目標を達成しよう

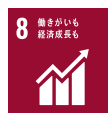
政府や自治体、民間企業、市民など垣根を越えたパートナーシップ
により、知識や技術、資金を補い、物事を達成する。

01_百々染 (ももぞめ)



染料の素材を採取して染液をつくり、ひとつずつ丁寧に染めて仕上げる草木染めのバッグや木綿のストール。岐阜県美術館ミュージアムショップ、川原町の「長良川デパート」、岐阜市の「つくる岐阜」、ウェブサイト「えんがわマルシェ」で出会えます。

個性が違うからこそ
彩りが生まれる。
やりがいを積み重ねたら、
いつしか“自分の仕事”に
責任を持てるように。



四季折々の日々が色彩に。 草木染めのバッグやストール

桜吹雪のなかを歩いた穏やかな春の日、雨上がりの蒸し暑さに額の汗がにじむ初夏の日、色づく山が鮮やかな秋の日、降り積もる粉雪のなかに色を見つけた冬の日。草木を採取した日や染めた日の情景を宿し、一つひとつにストーリーも色彩も異なる「百々染」は、岐阜市北部・出屋敷地区にある「第二いぶきいろどり」という工房でつくられています。どんな草木で染めてみたいか、どう染めたいか、どんな作業が好きか。みんなの言葉にできない思いをスタッフが汲みとり、実現するにはどうしたらいいか試行錯誤して。つくり始めた当初は、決めた色に仕上げるのが商品のクオリティと考えていたスタッフでしたが、染めた日の環境や人によって色のニュアンスが違っても個性であり、魅力だと感じるようになったのも、みんなで仕事をしていくなかでの気づきでした。

最初は仕事に興味がなかったメンバーもやりがいを感じるなかでいつしか“自分の仕事”に責任を持つようになり、社会とつながっている実感を得られるように。百々染の工房は、そんな明るいエネルギーに満ちた場所です。

*いろどりは…スタッフ11人と障害のある人16人で活動。



葉をちぎる、染液に浸す
ダイナミックに染める…！
それぞれ得意を発揮して。

日々の仕事



いろどりの朝は、近所を散歩することから始まります。どんな花が咲いていたか。どんな木々が枝葉をのばしていたか。どんな風が吹き、どんな匂いがしたか。五感で季節の移り変わりを感じ、気になる木の実や葉っぱ、花を見つけたら染料に使ってみます。午前中は素材を採取しに出かけたり、近くの畑で栽培する素材を収穫したり。午後からは染液をつくるための作業や染め作業などを行います。

できること×興味の持てること
が意欲や責任感に。

モチベーション



葉っぱを細かくちぎることが得意な人、ゆっくりした作業が好きな人、ダイナミックな作業にやりがいを感じる人。得意なこと、苦手なことの差も大きいですが、誰もそうであるように、向いている作業や興味のある作業に意欲を発揮できるのはいろどりの仲間たちも同じ。染めの作業をするようになって仕事が楽しく思えるようになったり、“これは自分の仕事だ”と責任感を持つようになったメンバーもいます。

スタッフ VOICE

がんばれるポイントを探り、
作業に織り交ぜる。

障害の度合いは一人ひとり異なり、手足や肩の動かし方や、どんなことに興味を持つかも違います。自分の気持ちを言葉でしっかりと伝えられるわけでもありません。スタッフがやってほしいことではなく、彼らががんばろうと思えるポイントを探り、作業のなかに織り交ぜていきます(山本)。

百々染は2015年に「清流の国 森の恵み大賞 優秀賞」を受賞しました。授賞式には仲間も一緒に参加し、表情から誇らしい気持ちが垣間見えたのがうれしかったです。障害のある彼らも社会で必要とされ、認められているんだと感じてもらい、誇らしく生きてほしい(初瀬尾)。



初瀬尾久美子さん



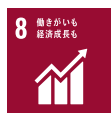
山本昇平さん

02_農業



畑では年間を通して野菜をつくっています。無農薬・無肥料でつくる野菜の味は評判で、収穫した野菜は岐阜市のOKBふれあい会館14階にある展望レストラン「Kouzo Gifu」で料理に使われているほかマルシェや定期注文などでお届けしています。

人に喜んでもらえると
うれしくなる。
ときには大変なこともあるけれど、
好きな作業に没頭したり
求められることが“働きがい”に。



手塩にかけて育てる 無農薬・無肥料野菜

暑い日も、寒い日も。雨が降っていなければ毎日のように畑にでかけ、雑草を抜いたり、マルチシートを張ったり、種まき、間引きをしたり。手塩にかけて育てた野菜はレストランの料理人も太鼓判を押すほどのおいしさです。岐阜市近島にある「ごんのしま作業所」では、屋外で活動するのに向いているメンバーが近隣にある畑での作業を、そのほかのメンバーは室内で収穫した野菜やお茶などの袋詰め作業や加工商品などの手作業、商品のお届けなどを分担して行っています。

できること、やりがいを感じることをスタッフが温かく見守り、一人ひとりのペースも尊重して。畑メンバーには、穴掘り名人、チェーン除草名人、マルチ張り名人、収穫名人、草取り名人、運び名人などさまざまな「名人」が得意を発揮しています。

そんなメンバーたちが顔をほころばせるのが、収穫した野菜を納品先のレストランに届けたり、定期注文をうけている先に配達に行ったりするとき。自分たちの育てた野菜がおいしい料理へと姿を変えたり、「ありがとう」「また楽しみにしてるよ」など喜んでもらえることが何よりのモチベーションになっています。

*ごんのしま作業所とは…スタッフ13人と
障害のある人19人で活動。



草取りやマルチ張り、収穫など
毎日畑にでかけ
手間を惜しまず野菜を育てる。

日々の仕事



作業所から車で5分ほどの場所に畑が2ヶ所と果樹園があります。夏はナス、ピーマン、ししとうなど、秋はさつまいもや里芋、大根、にんじんなどを収穫。果樹園では柿やいよかん、レモンなども育てています。夏は暑く、冬は寒い。けれど自分たちの畑だという思いもあり、ほぼ毎日畑作業は欠かせません。収穫を心待ちにしている人ばかりではなく、それぞれが好きな作業に没頭しながら畑の手入れを楽しんでいます。



ほうじ茶をはじめ、フレーバードティーも種類豊富。長良川デパートやECサイト（えんがわマルシェ）、THE GIFTS SHOPなどで販売しています。

スタッフ VOICE

言葉にできない思いを汲みとりながら。
社会とのつながりも大切。

気持ちを言葉で表すことができないメンバーも多いので、様子から心の状態を判断して、できること、やりやすいことを見つけていきます。相性もあったりするので、一年のうちに何度も担当換えをすることも。いろんな活動を通じてみんなが社会とのつながりを感じられるよう、さまざまな活動に取り組んでいます。



竹腰龍太さん

育てた野菜を
喜んでくれる人と
直接触れ合えるのがうれしい。

モチベーション



「いぶきの大根を味噌汁に使ったらすごくおいしかった」。Kouzo Gifuさんとはそんなことからお付き合いが深まり、レストランで野菜を使ってもらったり、コロナ禍で大変な思いをしているひとり親家庭や子ども食堂にお弁当を配達する「ハレバレごはんプロジェクト」を一緒に行ったり。育てた野菜を使ってくれる人、また野菜を使ったお弁当を喜んでくれる人の顔が見られることが明日への活力となります。

01_日光町の家



学校を卒業して働くまでの生活に慣れたり、年齢や体調を考えて仕事をひと休みする場所。散歩にでかけて体力づくりをしたり、絵や工作など好きなことをしたり、庭で植物を育てたり。月に一度は「にっこりえんがわマルシェ」を開催。地域の人のつながりを温めながら、暮らしのなかにある“おいしい、うれしい、楽しい!”を共有しています。

いぶき福祉会note記事より

「やりたいこと」を伝えるのが難しいときもある。

「休日をどう過ごせばいいのか?」と悩んでしまう人もいます。10年ほど前に初めて移動支援を利用した彼女もそんなひとりでした。当時よく彼女が会話にしていたのは、開業を間近に控えた東京スカイツリー。「そこまで気になるならヘルパーさんと行ってみたら?」と言うと、「えっ?そんなことやりたいって言ってもいいの?」と彼女。その言葉を聞いたとき、とても衝撃を受けました。それまで仕事や生活のなかで、彼女になんと声をかけてきただろうかと。「そんなことしちゃだめ」「こうやってやるのが普通」「こうしないといけない」そんなことばかり言われていたら、「わたしはこれがやりたい」なんて言えるわけがないと。彼女はそこから1年ほどかけてヘルパーさんの分と合わせた旅費を貯め、東京スカイツリーにでかけました。その後は東京や名古屋、大阪、京都などテレビや雑誌で話題の場所を見つけるたびに「次はここへ行くためにお金を貯める」と言うようになりました。自分の願いを口にする。これは思ったより難しいことなのかもしれません。自分の夢や願いを伝えられるよう向き合っていかなければならないのだと思います。

安心して過ごせる場所がある、
好きって思えることがある。
だから、明日が楽しみになる。



スタッフ
VOICE

気持ちが動くポイントを試行錯誤しながら
やりがいと一緒に見つけていきたい。

やりたい気持ちはあるけど体力がついていかなかったり、気が向かなかったり。いろいろやってみて本人の気持ちが動くところを試行錯誤する毎日です。仕事では人から求められたり感謝されたりすることがやりがいになるけれど、仕事以外でやりがいを見つけるのは難しい。でもそれは、元気の源。みんなの人生が豊かになるよう、一緒に探していきたいと思います。



星場真希さん

02_グループホーム



好きな暮らしを自分で選べる、そのひとつがグループホーム「バストラルいぶき」。夜中でもすぐそばに助けてくれる人がいる場所なら、家族と離れて暮らすことができるかもしれません。災害が起こった際、障害のある人の緊急受け入れ先の防災拠点としての機能も備えています。

いぶき福祉会note記事より

“それなり”じゃなく
みんなと同じように幸せを望んでも。

「みんながうらやましがするようなホームを作ろうよ」そんな風景を描いて掲げたグループホーム設立の目標。こんなに贅沢な施設があるのかという批判も少なからずあったけれど、ここに集うみんなが素敵な家で暮らすことにこだわっていた。障害があるからってそれなりの幸せしか望んじやいけない?いや、きれいなところに暮らして人に自慢してほしい。みんなでおいしいものを食べて、楽しく暮らすのを当たり前にしたい。

好きな暮らしを自分で選ぶ。
安心でき、もしものときも大丈夫だと思える場所で。



地域の課題を、ともに

1 岐阜市リサイクルセンター

2022年4月から岐阜市で家庭ごみの分別収集が始まり、岐阜市木田に新しくリサイクルセンターが誕生しました。プラスチック容器包装やペットボトル、ビン、缶などを再資源化する選別作業が行われ、そのうちのペットボトルの手選別の仕事をいぶき福祉会が担っています。作業に携わるようになり、「ペットボトルのフタを外して捨てよう」など、ごみの分別や環境問題についても少しずつ意識するようになりました。



2 いぶき防災DAY

防災拠点併用のグループホーム「バストラルいぶき」では、地域の人たちと防災について一緒に考えたり交流できる場として「いぶき防災DAY」に取り組んでいます。2021年よりスタートし、初回はオンラインでしたが、今年はいぶきで開催。実際の避難をイメージしてどのようにこの場所を利用できるか体験したり、動画を視聴したりと、ともに防災意識を高める機会にもなっています。



いろいろあるけれど、みんなで明るい未来へ。

障害のある人を取り巻く環境にはどんな課題があるのか。

本人や親御さんと長年向き合ってきた

いぶき福祉会の相談支援専門員の池田光巳さん、山中真紀さんが課題や展望に目を向けます。



池田光巳さん



山中真紀さん

1

親がいなくなっても心豊かに暮らせるか心配。



親御さんはみなさん

「この子より長生きしなきゃね」と考えるんです。

自分たちがいなくなった後、我が子がどこで暮らしていけばいいのか、お金の管理を誰に託せばいいのか…心配ごとを挙げればキリがありません。でもやはり、親御さんのほうが先に亡くなってしまうケースが多い。親御さんの心配を減らし、亡くなられた後でも困ることなく生きていけるように取り組んでいるのが「親心の記録(エンディングノート)」です。その人の人生を遡って、誰と関わって生きてきたのか、どんなことが好きなのか、また習慣にしてきたことなどを親御さんに綴っていただく。ずっと習慣にしてきたことがある日突然変わってしまうと誰しも戸惑いますが、親御さんがいなくなってしまうとそういった出来事に直面することは結構あるんです。言葉で伝えることができないために、いろんなことを諦めてしまったり、楽しみをなくしてしまったりすることがないように。生活の場所や金銭面の安心ももちろんですが、日々の暮らしにあるささやかな楽しみも大事にしていきたいですね。



2

楽しみを見つけづらい。

仕事も休日も
生きたいように生きるって
なかなか難しいんです。



好きなことがある人は、生きがいがあるからいい。たとえば電車が好きで休みの日にヘルパーさんと一緒に電車を見に行ったり。大きなテレビが欲しくて、毎月のお給料を少しずつ貯めてテレビを買って、やったぁ!と喜んだり。でも、なかには楽しみを見つけづらい人もいます。お金の価値がよくわからないために、働いても自分のためにお金を使うことができなかったり、また仕事そのものが自分のやりたいことではなかったり。仕事が嫌だったりしんどいと思ったら転職するかもしれないけど、障害のある人の場合は自分で辞めることもできない。できるだけ本人の気持ちを汲みながらも、その人にとって最善の利益を選ぶようにしていきたいと思っています。

3

地域との間に壁ができてしまう。



子どもの頃から
いろんな人がまわりにいる
環境だと、多様性が当たり前に。

地域からなんとなく壁をつくられてしまったり、また親御さんのほうから壁をつくってしまった、どちらのケースもあります。親御さんたちとしては出先でなにかあって大変な思いをするくらいなら家に閉じこもっていたほうがいいし、お子さんが小さいころからいろんな場面で謝り続けるうちに、謝ることを一切できなくなってしまった人もいます。地域の小学校に通わせたいと思っても、小学校にエレベーターがなければ車椅子のお子さんの場合は難しい。子どもの頃から障害がある子などいろんな人が身近にいて関わりが持てると、その子たちが大人になったときの社会って多少なりとも変わっていくんじゃないかな。誰でも自由にいろんな選択をしていける寛容な世の中になるといいですね。



未来にむけて



がんばって声を
上げてきた人たちがいて、
少しずつ明るい方向へと
変わっている。

いぶき福祉会ができた当初は障害のある人が働く作業所も近隣にはなかったから学校を卒業したら家で過ごすしかなかったし、その昔には特別支援学校さえなかった時代もあります。親御さんもお子さんの学校や通院の送迎のために仕事を辞めざるを得ない人も多かった。今では障害のある子どもが通える放課後デイサービスもあるから、お父さんもお母さんも仕事を続けることができるようになったし、本人たちも学校を卒業してから働く場所があります。その時代ごとに今ある問題に対して解決策を考え、がんばって声を上げてきた人たちがいて、社会の潮目が変わり、法律ができ、障害のある人を取り巻く環境は大きく変化してきました。だからこそ、目の前にある課題に対して、もっと暮らしやすい社会にしていこうよと声を上げることが大事で、それが今障害福祉に携わっている私たちの役目だと思います。

みんなで一緒に、寛容な社会へ。

障害のある人のなかにも、ひとりでどんどん出かけられる人もいれば、さまざまな理由から外に出られなくなっている人もいます。
人によって苦手なこともさまざまですが、
まず知ること、お互いに安心して暮らせる社会に近づけるかもしれません。

／ こういうときはどうしたらいいかな？ ／

【じっと静かにしていること】

音楽やアートが好きな人はたくさんいますが、美術館やクラシックコンサート、映画館、図書館など静かにしていないといけないような場所にはなかなか行けません。つい声を出してしまい、退出を余儀なくされることもありました。また、公共交通機関で移動する場合もやはり、ずっと静かにしているのは難しい人もいます。



「おしゃべりしてもいい日」や「にぎやかにしてもいい時間帯」があれば、足を運びやすくなるかもしれないね

【一度にたくさんの情報を受けること】

たとえば一人で外出している障害のある人に道を聞かれる場面があったとします。「その先の信号を左に曲がって、次の信号を右に…」など順序立てて説明しても、一度にたくさんの情報を覚えるのが難しい人もいます。



紙とペンがあれば、図にして渡すとわかりやすいかもしれないね

【大きな音や強い光】

障害の特性によっては、大きな音や光が苦手な人もいます。外出するときはイヤーマフや帽子を持参して、苦手な音や光を避ける工夫をすることもあります。



さまざまな場面や環境によって辛さを感じる人がいることを知っておくのが大切ですね

【ちょうどいい大きさの音量や、わかりやすく伝えること】

声のボリュームを調整するのが難しく、大きな声でしゃべってしまう人もたくさんいます。また、人にとこやかに接するのが得意ではない人も多く、ぶしつけな態度に感じることがあるかもしれませんが、悪気があるわけではありません。



知っていれば「怖い」とか「ぶっきらぼうだな」と感じることなく、相手と向きあうことができそうだね

障害がある人に限らず、得意なことや苦手なことは人それぞれ。障害がある人が助けられるばかりではなく、だれしも社会やまわりの人に助けられたり、助けたりしながら生きているのではないのでしょうか。自分と違うことを遠ざけたり、無関心でいるのではなく、人の多様性がそのままに受け入れられ、いろんな人がいるけどこの人はこうだよねと、みんなが心地よく過ごせるような寛容な社会に未来が少しでも近づいていますように。

仕事で誰かに求められる。

一緒に時間を過ごす仲間がいる。

仕事以外にもやりがいや楽しみを感じられることがある。

人々の暮らしのベースにある安心感とは、

そんなささやかな毎日のなかにあるのではないのでしょうか。

コロナ禍でいろんなことが変わり、

今ある毎日が当たり前ではないと気付かされたここ数年ですが、

障害がある人にとっては、そんなささやかな毎日だって

奇跡のような一日の積み重ね。

それでも、“生きていく”ことはみな平等であるはず。

わたしたちは、障害がある人の心の機微に寄り添い、

ここに集うみんながいきがいを感じ

笑顔がこぼれる瞬間があるような、

そんな毎日に向けて取り組んでいます。

みなさんも一緒に、

誰もが安心して暮らせる協働の社会を目指しませんか。

社会福祉法人いぶき福祉会

発行日 2023年2月24日
発行元 社会福祉法人いぶき福祉会
〒502-0907 岐阜県岐阜市島新町5-9
TEL 058-233-7445
Email ibuki.m@ibuki-komado.com
URL <https://ibuki-komado.com/>

この冊子は岐阜県からの「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワーク連携促進補助金を受けています